

令和6年度 事業報告 (案)

資料2

全国科学博物館協議会

1 管 理 運 営

事 項	内 容
第1回 理事会	期 日 令和6年7月4日（木） 会 場 国立科学博物館 大会議室及びオンライン 出 席 館 出席：20館（監事館を含む） 現地：18館 オンライン：2館 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 令和5年度事業報告（案）について 2) 令和5年度収支決算（案）について 3) 令和6年度事業予定（案）について 4) 全国科学博物館協議会研究発表大会運営委員会について（案） 5) その他
第1回 総 会	期 日 令和6年7月4日（木） 会 場 国立科学博物館 講堂及びオンライン 出 席 館 出席者：157名うち現地103名（正会員93館園及び維持会員12団体、購読会員4団体） 委任状提出：86館園・団体（正会員83館園及び維持会員3団体） 議 事 次の（1）～（4）の議事について審議し、承認され、（5）について報告された。 1) 令和5年度事業報告（案）について 2) 令和5年度収支決算（案）について 3) 令和6年度事業予定（案）について 4) 全国科学博物館協議会研究発表大会運営委員会について（案） 5) 2024年世界自動車博物館会議日本大会の進捗状況について 6) その他 海外先進施設調査報告 福井県立恐竜博物館 関谷 透 新江ノ島水族館 なぎさの体験学習館 笠松 舞 行政説明 「博物館振興について」 文化庁 文化戦略官／博物館振興室長 高井 絢 記念講演 「ミュージアムへ行こう！」 毎日新聞客員編集委員 元村 有希子 施設見学 令和6年7月5日（金） 見学先：東京ガス株式会社 がすてなーに ガスの科学館
第2回 理事会	期 日 令和7年2月12日（水） 会 場 兵庫県立人と自然の博物館及びオンライン 出 席 館 出席：18館（監事館を含む） 委任状提出：2館 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 全国科学博物館協議会総会運営規程の改正について（案） 2) 令和7年度事業計画及び収支予算について（案） 3) 世界自動車博物館会議2024事業報告及び収支決算について（案） 4) 令和7年度の役員館園について（案） その他 特になし
第2回 総 会	期 日 令和7年2月12日（水） 会 場 兵庫県立人と自然の博物館及びオンライン 出 席 館 出席者：140名（正会員75館及び維持会員7団体、購読会員1団体／会員外参加者2名） 委任状提出：76館・団体（正会員72館及び維持会員4団体） 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 全国科学博物館協議会総会運営規程の改正について（案） 2) 令和7年度事業計画及び収支予算について（案） 3) 世界自動車博物館会議2024事業報告及び収支決算について（案） 4) 令和7年度の役員館園について（案） その他 令和8年度の第2回理事会・総会の会場について、ご協力をお願い 行政説明 博物館振興施策等概要説明 文化庁 博物館振興室 博物館支援調査官 中尾 智行

	研修報告 全科協海外科学系博物館視察研修報告 産業技術総合研究所 地質標本館 館長 森田 澄人 報 告 生物多様性情報標準化会議 ・ 国際自然史標本保存学会 沖縄大会報告 大阪市立自然史博物館 学芸課長 佐久間 大輔 館内案内 兵庫県立人と自然の博物館概要説明 兵庫県立人と自然の博物館 館長 村上 哲明 ①オープン直前企画展「価値の手直し展Re: value EXP0」のご案内 ②新収蔵庫棟「コレクションナリウム」のご案内
--	--

2 事業 (1) 研修事業

事 項	内 容
学芸員専門研修 (アドバンスト・コース)	博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示、学習支援活動等について専門的、実践的な研修を実施した。 期 間 令和6年11月11日（月）～14日（木）（4日間） 共 催 者 国立科学博物館 内 容 海生無脊椎動物における研究・標本採集・管理の方法等 参 加 者 13名
オンライン学芸員 専門研修	博物館等に勤務する経験年数の少ない学芸員や職員等の方を対象に、一層の資質の向上を目的として研修を開催し、オンライン（Zoom）のライブ形式にて講義を行った。 期 間 令和7年2月17日（月）、18日（火）（2日間） 共 催 者 国立科学博物館 内 容 国立科学博物館人類研究部の研究活動や標本・資料の収蔵・活用等 参 加 者 24名
海外科学系博物館 視察研修	台湾の科学系博物館における展示技術、学習支援活動等について理解を深め、博物館の充実、発展に資することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて、海外視察研修を実施した。 期 間 令和7年1月14日（火）～20日（月）（7日間） 共 催 者 (一財)全国科学博物館振興財団 訪 問 館 国立台湾博物館、国立自然科学博物館（本館、分館車籠埔断層保存園区、分館921地震教育園区）、国立科学工芸博物館、国立海洋科技博物館 参 加 者 22名（9館、3社）
海外先進施設調査	これからの博物館事業を支えていく若手職員を主として、海外の先進博物館を調査・研究する機会を提供することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて実施した。 内 容 3名の調査者が、各自でテーマを設定し、米国、シンガポール・インドネシア、イタリアの博物館、研究施設等を訪問し調査した。派遣者とテーマ、調査先は以下のとおり。 期 間 令和6年10月4日（金）～12日（土）（9日間） 調 査 者 東京農工大学科学博物館 上田 裕尋 テ ー マ 「大学博物館に収蔵される古い自然史標本の修復・教育研究利用の事例調査」 訪 問 館 イェール大学附属ピーボディ博物館 期 間 令和6年10月28日（月）～11月4日（月）（8日間） 調 査 者 国立科学博物館 田中 庸照 テ ー マ 「東南アジアの博物館等における寄付等外部資金の戦略について」 訪 問 館 リー・コンシェン自然史博物館、アートミュージアム、チルドレンズミュージアム（シンガポール）、ボゴール植物園、ボゴール動物学博物館、国立自然史博物館（インドネシア） 期 間 令和6年11月9日（土）～16日（土）（8日間） 調 査 者 多摩六都科学館 佐々木 有美 テ ー マ 「レッジ・エミリア市で取り組まれているレッジ・エミリア・アプローチの現地調査」 訪 問 館 ローリス・マラグッツィ国際センター、REMIDA(クリエイティブリサイクルセンター)、RODARI乳児保育園

(2) 連携促進事業

事 項	内 容
研究発表大会	科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表及び協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実に資することを目的とし、第32回研究発表大会を開催した。 期 日 令和7年2月13日（木）、14日（金） 会 場 兵庫県立人と自然の博物館及びオンライン 司会進行 福岡市科学館 高安 礼士、立正大学及び埼玉県立川の博物館 小川 義和 参 加 者 1日目：180名うち現地106名（会員外参加5団体）、2日目：132名うち現地75名（会員外参加3団体） テ ー マ 博物館が提供する様々な経験－教育、楽しみ、省察、知識共有の観点から ○口頭研究発表 25件 ① 博物館の資源を活用した中高生向け探究学習プログラムの開発 国立科学博物館 有田 寛之・小川 義和 トータルメディア開発研究所 高橋 伸幸・大塚 理恵・高安 礼士 学校法人文化杉並学園 染谷 昌亮・渡辺 翔大・成瀬 敦史 ② 火山防災の日を活用した火山教育 磐梯山噴火記念館 佐藤 公 ③ 探究学習に沿った学習教材の制作～探究学習プログラム～ 日本科学未来館 竹内 公彦 ④ 博物館を拠点とした地球科学分野の探究学習～第22回地震火山地質こどもサマースクールin平塚の例～ 平塚市博物館 野崎 篤 ⑤ 「教員のための博物館の日」における連携を通じた、多様な学習機会の提供 国立科学博物館 林 健太郎・濱村 伸治 ⑥ 名古屋市科学館におけるボーリングコア関連事業 名古屋市科学館 木田 梨沙子 ⑦ 北九州市スペースLABOにおける大型展示物に即したミニ実験教室の実施 北九州市科学館 川村 康文 ⑧ 多様な楽しみの創出を目指した分野横断的な企画展の実施 佐賀県立宇宙科学館 伊藤 辰徳 ⑨ 展示と地域を結ぶ巡回展「地球時間の旅」 糸魚川フォッサマグナミュージアム 香取 拓馬 ⑩ 博物館における合理的配慮とは？～千葉盲学校との連携を例に～ 千葉県立中央博物館 丸山 啓志 ⑪ 博物館を「SDGsを語る場」とするために必要な仕掛けと人材 大阪市立自然史博物館RISTEX事業の取り組みから 大阪市立自然史博物館 佐久間 大輔・松井 彰子 認定NPO 法人 大阪自然史センター 山中 亜希子・神山 雄人 ⑫ もっとみんなのための博物館になるために：M3プロジェクト実行委員会2022年度の活動から 大阪市立自然史博物館 石井 陽子 ⑬ 特別支援学校との協働によるケアルームの設置～誰もが楽しみやすい博物館の環境づくり～ 兵庫県立人と自然の博物館 福本 優・橋本 佳延・廣瀬 孝太郎・藤井 俊夫 ⑭ 展示を介した被災体験の共有 ～2024年能登半島地震の例～ 富山市科学博物館 増淵 佳子 ⑮ 地理情報システム（GIS）を用いた生物分布マップ「びわはくGIS」による鳥類分布情報の蓄積と活用 滋賀県立琵琶湖博物館 亀田 佳代子・加藤 秀雄・大槻 達郎 ⑯ ハグロトンボしらべ隊をつづけてみたら～市民参加型調査会から広がる様々な経験と楽しみ～ 高槻市立自然博物館 あくあびあ芥川 秀瀬 みのり ⑰ 自然史博物館にやってくる市民からの質問～質問対応の中で考えていること～ 大阪市立自然史博物館 横川 昌史

- ⑮ 天文科学館が考える学びの3段階と星の会や天ボラ活動
明石市立天文科学館 鈴木 康史・石井 優子・沖中 あゆみ
- ⑯ 博物館に寄せられる質問の自然史情報としての意義
滋賀県立琵琶湖博物館 金尾 滋史
- ⑰ SDGs家族会議：
小学生を含む家族が共に楽しく学び、対話し、未来を考える対話型プログラムの成果と課題
福岡市科学館 西澤 息吹・高山 裕明・上田 恭子
- ⑱ 京都鉄道博物館における多彩な来館者層に向けたアプローチ
京都鉄道博物館 久保 奈緒子
- ⑲ 顕微鏡で身近な未知の世界を感じる「科学の目」を育てる
多摩六都科学館 原 朋子
- ⑳ 参加者自身が学びの機会を選べる普及教育事業を目指して
～高槻市立自然博物館での企画展と関連イベントの事例紹介～
高槻市立自然博物館 あくあびあ芥川 池田 裕介
結creation／高槻市立自然博物館 北村 美香
- ㉑ 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践
神奈川県立生命の星・地球博物館 加藤 ゆき・石浜 佐栄子
大坪 奏・広谷 浩子
- ㉒ スタッフの対話力を上げる「対話ログ」の活用
はまぎん こども宇宙科学館 鈴木 啓子

○ポスター発表 8件

- ① 「自然系ジュニア学芸員講座」の活動を通じたゼネラリストの養成
姫路科学館 宮下 直也・松本 万尋・吉田 航希
- ② 目の不自由な方が博物館を楽しむためには？～体性感覚からのアプローチ～
千葉県立中央博物館 丸山 啓志
- ③ 糸魚川フォッサマグナミュージアムにおける体験型展示物作成～博物館30周年記念特別展を例に～
糸魚川フォッサマグナミュージアム 郡山 鈴夏・小河原 孝彦・茨木 洋介・
香取 拓馬・竹之内 耕
- ④ 肉眼彗星が市民活動に及ぼした影響に関する考察と彗星観望会実施報告
月光天文台 鶴谷 律子
- ⑤ 企業博物館の図書室発信！ 共感・交流する図書室を目指して
トヨタ博物館 小室 利恵
- ⑥ 暮らしに活かす科学の知恵～みなと科学館のリビングサイエンスプログラムをとおして～
港区立みなと科学館 太田 陽子
- ⑦ 非来館者に向けたダウンロード学習教材の提供
日本科学未来館 山野 晋平
- ⑧ 対話を重ね、ともにつくる「インクルーシブプロジェクト」始動
～共生社会における新しい博物館を目指して～
神奈川県立生命の星・地球博物館 大島 光春・佐藤 武宏・田口 公則
乃村工芸社 佐竹 和歌子・松本 麻里・天野 晴香・関口 郁恵・
井部 玲子・宮坂 清佳

巡回展の実施協力	国立科学博物館製作による巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」、「博物館が支える 日本の生物多様性の保全」、産業技術総合研究所地質標本館製作のパネル展「地中熱 あなたの足元に再生可能エネルギー」、「進化する地質図 —GSJ140年目の地質情報—」、「美しい砂の世界—日本の砂、世界の砂、地層の砂—」、「日本初！日本列島大分析元素で見る『地球化学図』」、「祝チバニアン誕生！拡大版—もっと知りたい千葉時代—」、「日本列島ストレスマップ—地震観測とAIで読み解く全国の地殻応力場—」、「時」展覧会2020実行委員会製作のパネル展「『時』展覧会2020」、日本科学技術振興財団の巡回展示「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」、福島県環境創造センターのコミュニティ福島学習パネルの案内周知を行うなどその開催実施に協力した。
科学系博物館ネットワークシステム事業への協力	国立科学博物館が行っている科学系博物館情報ネットワークシステム事業（S-net）について、事業推進に協力した。
事業に対する後援	加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められた事業に対し後援を行った。 8件 「博物館の達人」認定 (独立行政法人国立科学博物館) 「青少年のための科学の祭典 2024」各大会 (「青少年のための科学の祭典」各大会実行委員会、公益財団法人日本科学技術振興財団) - 夏休みあいちサイエンスフェスティバル2024 (国立大学法人名古屋大学) - あいちサイエンスフェスティバル2024 (国立大学法人名古屋大学) - 第41回植物画コンクール (独立行政法人国立科学博物館) - デジタルアーカイブフェス2024—活用最前線— (内閣府知的財産戦略推進事務局、国立国会図書館) - 静岡科学館 企画展 カガクの「？」をカタチにする展～疑問を探究するっておもしろい！～ (静岡科学館・く・る) - 令和6年度展示学講座 (日本展示学会)

(3) 広報普及事業

事 項	内 容
機関誌の発行	全科協ニュース編集委員会を開催し、特集テーマ等加盟館園にとって有益な情報を掲載するよう内容の充実を図った。 「全科協ニュース」を年6回編集発行した（A4判16頁（第54巻第4号は20頁）内カラー4頁、850部） 第54巻第3号（R6年 5月） 特集：令和5年度 海外科学系博物館視察研修報告 第54巻第4号（R6年 7月） 特集：第31回研究発表大会より コミュニティとともに活動する博物館 第54巻第5号（R6年 9月） 特集：みんなどうしてる？ わが館の博物館実習 第54巻第6号（R6年11月） 特集：インクルーシブミュージアム 第55巻第1号（R7年 1月） 特集：外部資金活用の取り組み 第55巻第2号（R7年 3月） 特集：ミュージアムキャラクターのすゝめ
入会案内及び広報活動	全科協ホームページの運営方法と内容を随時見直し、facebookを活用するなどして情報及び内容のさらなる充実を図った。 - 全科協ニュース全号の掲載 - 理事会・総会の開催通知や各事業の募集案内の掲載 - 研究発表大会口頭発表要旨の掲載 他の博物館等協議会や関連企業等と情報交換し、リーフレットを配布するなど全科協への加盟の広報に努めた。